

本報 上郷新聞

令和3年師走 No.109

発行責任者
梅郷6丁目自治会長
森川 均
TEL.76-2295

編集委員
岩波 秀明
鈴木 則男

編集顧問
山下 秀明

新型コロナウイルスにより、昨年度に続き自治会行事があいついで中止となる中、森川会長に今年度の経過報告をお願いしました。

今こそ地域の底力を！

大切に守っていききたいご近所とのおつきあい

自治会活動の現状について

自治会長 森川 均

今年も新型コロナウイルス感染症に振り回された1年でした。4月下旬から9



防災訓練で交信中の森川会長

月末までは東京オリンピック、パラリンピックの期間も含めて、ほとんどが緊急事態宣言下にありました。そのため、例年5月に行う隣組長さんの会議や、6月に行う各種団体長さんを加

えた合同会議も中止させていただきました。



新しくなった上郷バス停ベンチ

第4支会で行う体育行事や文化祭も中止となり、上郷文化祭も残念ながら中止とさせていただきます。このように会員の皆様に参加していただく事業はできませんでしたが、月に一度の定例理事会は、ウイルス感染に注意しながら開催し、要望のあった事項などについて協議し対応しました。都バス上郷停留所のベンチ更新や、マスクの配付などです。今年度4回を予定してい

た資源回収は、1・2回目をコロナのため中止しましたが、11月28日には、多くの隣組長さんや各種団体の皆様のご参加をいただき、無事実施することができました。

次に、災害対応についてです。地震や、大雨による土砂災害など、大きな災害が危惧されています。コロナの流行と重なる最悪のシナリオも想定しなければなりません。8月に第4支会主催の、自治会館を避難場所とする運営研修会に参加しました。梅郷3丁目自治会館を使って、市の防災担当者から部屋割りや準備すべき備品など具体的な説明を受けました。



3丁目自治会館での避難場所運営研修会

また、11月21日には梅郷地区の本部防災訓練に合わせ、梅郷6丁目支部でも各種団体長を対象とした参加訓練を行いました。

また一般会員を対象とした行事は実施できませんが、地道に活動を行っています。引き続きのご理解とご協力をよろしくお願いします。

第4分団 非常招集訓練実施

秋の火災予防運動

11月14日(日)の早朝、柚木町1丁目の吉野園地駐車場付近の山林で火災が発生したとの想定のもと、梅郷地区を担当する青梅市消防団第4分団の非常招集訓練が行われました。



参加した団員は検温やマスクの着用、使用資機材はアルコール消毒を行うなど、徹底した衛生対策がとられていました。

梅郷6丁目を担当する第5部も、木下部長以下団員がきびきびと訓練にあたっていました。

今年はいつものより日本各地での火災が多いような気がします。

万が一にも火災を起こすことのないよう、火の元には十分注意したいものです。

「新吉野」再現の夢

渡辺友一郎

吉野という名称を用いている例は、吉野街道、吉野梅郷、吉野山園地、都営バス、の吉野行、さらにJA西東京吉野支店、吉野郵便局などがあります。



新明王橋東側に設置されている都道標識

当地区は、第五小学校の校歌にもあるように、古くから奈良県の梅の名所の月ヶ瀬に因(ちな)んで「新月ヶ瀬」とも呼ばれていました。

今回は、梅の名所であった梅郷がなぜ桜の名所であった吉野の再現」を図ろうとし

ました。なお、桜樹植栽に併せ、川上郡三氏は、琴平神社上方通称・カンサスに草庵(そうあん)を結び、吉野山荘と私唱し、数百メートル隔てた夫婦沢の水源から水を引いています。



神代橋から三室山を遠望

上郷では三室山(みむろやま)周辺の大柴原(おおしばら)とか茅場(かやば)と呼ばれた粗朶(そだ・薪)、茅、くずっぱ(堆肥用の落葉)を採取してきた場所でした。明治十七年(一八八四)、

そして、明治二十二年(一八八九)四月の町村制施行に伴い、下、柚木、日影和田、畑中の四ヶ村が合併して誕生した新村名も「吉野村」と命名され、初代村長は下村戸長であった川上郡三氏が就任しました。なお、下村共有地は、吉野村有地に組み入れられました。このように川上氏の強い統率力により桜樹は植栽さ

れましたが、当時上郷では一軒に一人(家によっては二人以上)農業の合間に、伐木、木だし、木挽き(こびき)、杣削り(そまけずり)、筏乗りなど林業や木材に關係する仕事に従事していたこともあり、桜樹植栽に対する不満もくすぶっていました。古老の話によると「夜陰にまぎれて桜を伐採する者もいた。」とのことでした。明治二十七年三月二十七日には、三浦東京府知事が川上氏の草庵まで登っています。



大聖院延命地藏尊

桜樹の伐採や茅の刈り取りが行われ、同年四月と翌三十九年五月の二回に別けて杉、桧計三万七千本の植え付けが行われました。杉、桧は、足場丸太の需要が多かった時代、植え付けから二十年前後で伐採できたので、伐採により得た収入は、全体的には簡易水道の整備や神代橋架け替えなどの資金に回され、個人への配分は納税資金等に貯えられました。昭和三十年四月、吉野村が青梅市に合併されるに当たり、吉野村は、前年の二月に畑中から柚木までの六地区に法人を設立し、旧村有地を継承させました。現在の上郷生産森林組合はその一法人です。

上郷俳壇

紅葉する 八十八ヶ所 即清寺

裏道の 垣に山茶花 英治館

紅葉かつ散る 原酒求めて 楓橋

宮川 武久

上郷川柳

死ぬよしも 痛さ恐ろし 独り者

二泊三日の ツアーと洒落て 精検へ

検査済み 三種の薬 三月分

宮川 武久

練習頑張ってます！

梅老若囃子連

コロナ禍で、上郷の祭礼は2年続けて神事のみとなっています。そのような中、毎週練習を続けている上郷梅老若囃子連の皆さんを取材させていただきました。

現在、高校生以上の正会員と、中学生以下の準会員を合わせて総数は30人以上とのこと。取材した10月29日も指導する大人3人のほか、小中学生を中心

に11人が熱心に練習に励んでいました。全員マスクにアルコール消毒、換気のため窓を開け、参加者名簿には

体調を記入するなど、感染対策が徹底されていると感じました。

祭礼当日での出番がなく、なかなかモチベーションが上がらないとのことですが、5曲以上あるレパートリーを披露する日に向けて熱心に練習をしていました。

会員には未就学児もいるので、新規入会大歓迎と



2019年下山八幡神社祭礼での公演風景



太鼓のほかにタイヤも叩いて練習中

そう、新規入会大歓迎と

興味のある方は毎週金曜日の夜、お囃子の音が聞こえたら自治会館へどうぞ。

下山八幡神社の例大祭が10月16日行われました。コロナウイルス感染症が収まらない中、奉納演芸は昨年に続いて中止となり、神事のみが行われました。神社役員など関係者のみが出席する中、地域の安泰と一日も早いコロナ感染症の終息が祈願されました。一連の神事終了後、榊田宮司による「朝日舞」という神楽舞が披露されました。



「朝日舞」を舞う榊田宮司

エッセイ

京都蕪村庵のこと

24組 宮川 武久

「きのふ花 翌(あす)をもちやけふの月」

この俳句、少し変だと思いにありませんか？花、紅葉、月と季語が三つも入っています。

京都の老舗「蕪村庵」のあられの包み紙に印刷されている句の一つです。

蕪村の句とは書いてありませんが、蕪村庵の包み紙に印刷されているので、蕪村の句と思うのが当たり前です。名人蕪村ともあろう人が、こんな句を作るはずがありません。私の持っている「蕪村俳句集」(岩波書店)にも載っていません。

不審に思って、店に電話をして、出典を聞いてみました。電話に出た若い女性が、案の定、「調べますので少しお時間をいただきました」とのことだったので、電話を切って待ちました。

かなり待ってから返電があり、「出展は『おつふ』という出版社の『蕪村全句集』です。句は京都の季節と風物詩の遷り変りを詠んだものです。」と教えてくれました。

丁寧に礼を返した後、早速、図書館の蔵書を検索して、中央図書館に一冊の蔵書があるのが分かりました。借り受けて調べたところ、まぎれもなく蕪村の句でした。

閑人の酔狂に付き合ってくれた店の人に、改めて感謝の念を抱きました。そして自分の未熟さを恥ずかしく思いました。流石京都の老舗、その対応と職員教育の素晴らしさに頭が下がりました。

もう、十年以上も前のことだったと思いますが、蕪村の名を聞くと、またその句を読むたびに、このことが思い出されます。

「名橋の先の紅葉や桂川」
武久

上郷歌壇

朝顔の あんどん仕立て
窓の下 花見て和む
コロナの夏を

色毎に 朝顔の種 分けて
取る 来年の富士
花を夢みて
鈴木 善勝

一年ごとの 経過観察
告げられて 医者から
受くる 単利の命

インプット 素早き医者
のアドバイス 妙に納得
八十路の我は

減塩食 指導し呉るる
栄養士嬢 年頃およそ
孫とおつかつ
宮川 武久



自治会便り

第3回資源回収結果報告

11月28日(日) 自治会主催の第3回資源回収が、40名を越える大勢の方の参加をいただき実施されました。

昨年の11月22日に実施して以来、実に一年ぶりです。皆様ご苦勞様でした。自治会にとって貴重な財源を確保することができました。結果は下の表のとおりです。

第3回資源回収結果

仕切金	4,076円
青梅市報奨金	40,870円
計	44,946円

次回 資源回収

第4回資源回収は3月20日(日)を予定しています。

皆様のご協力よろしくお願ひいたします。

場所 西中駐車場
開始時間 午前8時30分

宝石エッセイ綴り 28

コロナのストレス解消

26・1組 鈴木 善勝

今年の七夕は、梅香会の清掃で大聖院の廊下を裸足で掃き清めた。その直後、お尻に赤い斑点が出始めたが、虫に刺されたのだろうか、虫に刺されたのかもしれない。思い気にも留めなかった。ところが、患部を見た妻は「帯状疱疹」だと言つので、慌てて市内の皮膚科に行つたところ、総合病院へ紹介状を書いて下さった。

帯状疱疹は、加齢やストレスが引き金となって発症するようである。コロナの発生以来、ステイホームが常態となつていたので、そのストレスが原因となって発症したのである。それ以前は気付かなかったが、帯状疱疹のワクチン注射の宣伝が医院に貼られていたり、テレビに放映されていた。これはコロナのストレスで帯状疱疹を発症する人が多いことを示しているであろう。

この病気がやっかいなのは、皮膚症状が治っても神経の痛みが後遺症として持続することである。私の場合、一カ月後の診察の際には疱疹は治つていたが、急所を直撃する激しい神経痛に悩まされていた。神経痛も含め完治するまでには三カ月も要した。

私は、コロナの期間、八十の手習いと称して万葉集の歌を楽しんできたが、結局のところストレスの解消とはならなかった。皆様どうかコロナのストレスに敗けないよう頑張つて下さい。

元日 新年拝賀式にご参加を

来年こそは良い年に

元日恒例の新年拝賀式が来年も、1月1日午前10時から、八坂神社で行われます。(下の写真はいずれも今年の拝賀式のものです。)

疫病除けの神様として知られる八坂神社、何百年にもわたって上郷を疫病から守ってくれています。

来年一年を健康でつつがなく過ごせるよう、一緒に

お参りしませんか。

開式前には梅老若囃子連



の若衆による奉納囃子もありません。山の中で寒いですが、式は短時間で終了します。

皆様へのお願い

「スポーツ広場にタバコの吸い殻が放置されている」という苦情が寄せられています。スポーツ広場内は禁煙です。皆さんが気持ちよく使えるようルールをお守りください。

訃報

7月7日、隣組19組

會田 武夫さん(享年83)が逝去されました。

生前は、自治会長や梅香会会長として活躍されました。また、上郷新聞にも数々の投稿をいただきました。

9月28日、隣組10組

岩波 タツ子さん(享年85)が逝去されました。

10月5日、隣組13組

木村 好浩さん(享年91)が逝去されました。

10月26日、隣組23・1組
榎戸 春雄さん(享年86)が逝去されました。

12月6日、隣組10組
岩波 揚三さん(享年90)が逝去されました。

生前は、副自治会長などを歴任されました。

ここに逝去を悼み謹んでご冥福をお祈り致します。



編集後記

春、三室山を一面の桜が埋め尽くし、全山淡いピンクに染まる。「新吉野」はロマンにあふれたすごい構想でした。時代がそぐわなかったのでしょうか、一目そのすばらしい景色を見たかった。

夢はさておき、現実、今年もコロナに振り回された一年でした。来年こそは良い年になりますように！